

B-41 インジゴ系建築染料の摩擦堅ロウ度に対するソーピング効果 (第1報)  
武蔵野女大短大 ○鈴木立子 奥隅路子 小畑俊哲

目的 インジゴ系建築染料の摩擦堅ロウ度に対するソーピング効果をソーピング済み染布の付着、染着状態に焦点を合せ研究することを目的とした。

方法 インジゴ、ゲブロムインジゴ、テトラブロムインジゴ各染布の摩擦堅ロウ度試験 (JIS法) によりソーピング効果の概略を把握した。今回はインジゴ10% o.w.f 染布 (ポプリン) を過硼酸ソーダ入り「ソーピング」を行い、ソーピング時間を変化させ (0、 $\frac{1}{2}$ h、 $\frac{1}{2}$ h、1h、2h、5h、8h) ソーピング後の染布の付着染着染料の量的関係を溶出試験、脱着率によりもとめた。すなわち溶出試験は *o-chlor phenol*, *ethyl alcohol* の混合溶剤で溶剤を循環しながら行い溶出時間30分毎に溶出したインジゴの量を検量線よりもとめた。これより脱着率曲線を作成しソーピング済み染布の付着、染着染料の量的関係をもとめた。ソーピング済み各染布の摩擦堅ロウ度試験を R.H. 65%、温度  $25 \pm 1^{\circ}\text{C}$  のもとで学振型摩擦試験器を使用、荷重 500g 摩擦回数 9500 回の条件で行った。尚、特に再現性を高めるため試験布の下に洋紙を2枚敷いて摩擦した。摩擦用白綿布の脱落染料を *methyl Cellosolve* で抽出、定量しこれより摩擦による染料脱落曲線を作成してソーピング済み染布の付着染着染料の量との相関関係をもとめた。

結果 基本的にインジゴ系建築染料のソーピングによる摩擦堅ロウ度の増進はソーピング後の付着、染着染料の量の減少に基づく。